友愛

第 155 号（2016）
〒733-0032 広島市西区東観音町 8-10
ワールド･フレンドシップ･センター
理事長：山根美智子　館長：Bernd & Maggie Phoenix
ＴＥＬ　（082）503-3191
ＦＡＸ　（082）503-3179
E-Mail wfchiroshima@nifty.com
URL: http://www.wfchiroshima.net/

目次

1. 2016 年韓国 PAX ・・ 2
2. グループのゲスト受け入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3. 新理事紹介 ・・ 7
4. アメリカ委員会のメンバーとしての経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
5. 中近東オレアンダー･イニシャティブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
6. 修道大学インターン ・・ 11
7. ロバート･ラムザイヤーさんの思い出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
8. 空フミコ先生を偲んで ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

1-1. 2016年韓国PAX

伊藤正雄

PAXが何かも知らず、WFCと係わりもないのに、ジム先生の紹介で参加させていただきました。気持ちよく参加を認めて下さったWFC関係の皆さんに感謝申し上げます。又、同行して下さった皆さん有難うございました。

近くて遠い隣国、過去において幾度となく迷惑をかけ続けた韓国。頭では分かっていても私の少年期の記憶、終戦直後の韓国人の横暴、李承晩(りしょうばん)ラインによる被害が何時までも消えない老人にとって昨今の日韓関係にはある種の反感さえ持っていました。

こんな私ですが大きな衝撃を受け、深い反省の念にかられた旅でした。それはホームステイ先の83歳になられるお父さんとの交流でした。彼はクリスチャンの二代目として生まれ、若くして日本に留学され、明治期の日本のキリスト教史に造詣の深いお方でした。日本の海外侵略には深い憤りを持ちながらも、表には出すことなく、100万円持っている人も、1万円しか持っていない人も皆、同じようにそれらを地に埋め、汗と涙でそこに花を咲かせようと言うビジョンで行動をしてこられたそうです。

そんな思いから息子さんたちをメノナイト神学大学に留学させ、愛を実践するKOPI(韓国平和教育訓練院)を設立されたそうです。昨年新築された本部・コミュニティホールにチャペルを備え、ご自身たち三家族邸や教師達の宿舎等の入るビルの名は「Peace-Building」と名付けられていました。コミュニティホールの壁面には、「Doing Justice, Seeking Peace Building Community Together!」と記され、揺れる日韓関係の中にあっても、真の友好関係を模索し続ける姿に接し、平和について陳べに行ったつもりが逆に多くの学びを受けた私の雅量の狭さを痛感し反省の日々です。

沢山の思い出を有難う、Jae、Karen、お父さん、ヨナム　and All。そして、WFCの皆さん、本当に有難うございました。

1-2. 2016年韓国PAX

WFC英会話クラス　　尾崎美栄子

私たちは、このたび韓国へ研修旅行に行かせていただき、多くの素

晴らしい人たちに出会えたことを本当に感謝しています。

私はそこで、平和活動に取り組んでいる多くの若い韓国の人たちに出会って驚きました。だって、私たち一行はあまり若くなかったからです。私は嬉しくて興奮気味でした。日本では、年配者のほうが世界平和に関心を持っているように感じます。なぜなら若い人たちは仕事が忙しくて、平和のことに取り組む暇がないのだと思います。年齢に関係なく周囲のことに関心を持つべきです。みんな幸せになる権利があるのですから。

私たちは、小さなさみしい島、ギョドンに行きました。入り口で、銃を持った2人の兵士に会いました。多分私たちの目的地と、その理由を聞いたのでしょう。大砲の音も聞こえ「ああ、ここは北朝鮮に近いところだなあ。」と思いました。稲の切り株が残った田んぼが広がっていました。丘のふもとに小さな円墳が所々に見えました。日本と朝鮮の強い歴史的なつながりを見た気がしました。

このうら寂しいギョドンは、近代的なビルが立ち並ぶソウルとは対照的でした。この島の人たちはもともと北から来た人たちでした。北朝鮮にある彼らの故郷は、細い海の向こうに見えていました。泳いで渡れるくらいのところにあるのです。65年前に北と南に分断されたとき、約3万人の人が、南に逃げてきました。すぐに帰れると思っていたのです。故郷に帰るのを夢見ながらだんだん亡くなっていき、現在は3千人に減っています。丘の上に“望郷”の碑がありました。そこで北朝鮮から来た老人の悲しいお話しを聞きました。彼の親戚の者も、「自分の骨を故郷に持って帰って。」と言い残して次々亡くなっていきました。この辺りは国境に近いので、人や車はほとんど見ず、古い家が本当にまばらにあるだけでした。犬を連れた海岸警備兵が2人、国境沿いを歩いていました。数羽の白い鳥が自由に有刺鉄線の上を飛んでいて、とてももの悲しい気持ちになりました。

この島の中心地を訪れました。古い小さな商店街があり、日に焼けたおじいさんが3人私達に笑いかけていました。カラフルな色の保育園から元気な子供たちの声が聞こえてきました。小さな家の軒下に燕(つばめ)の巣がたくさんありました。「私たちはあの燕がうらやましい。燕は必ず元の家で卵を産み育てる。私たちにはそれがかないません。」と、50歳くらいの女性が言いました。彼女はギョドンの悲しい歴史を私たちに語ってくれました。朝鮮の統一を目指した勇気ある活動家です。彼女はこの小さな島が北と南の平和の懸け橋になることを夢みています。

私たちは〝ナヌム〟と呼ばれる、老人ホームで数名の女性に会いました。彼女たちは第二次世界大戦中に日本兵に強姦されたのです。一夜に40～50人の相手をさせられたのです。私は彼女たちの人生がめちゃめちゃにされたことを思うと、気の毒で、なんと声をかけたらいいのかわかりませんでした。人生は1度きりです。素敵な人と恋をしたかったでしょう。幸せな家庭を持ちたかったでしょう。韓国では彼らのことを「性奴隷」とよび、「慰安婦」とは呼びません。もっともなことだと思います。彼らもまた戦争の犠牲者です。戦争はいつも弱者を犠牲にします。戦争はいつも悲し

みと、破滅を生みます。

私たちが、その日のスケジュールを終えて帰ってくると、コミュニティーの人たちがいつもの笑顔で、温かいご馳走を準備して迎えてくれました。夕飯だけでなく朝食の時も、楽しく有意義な会話をしました。私はすばらしかった韓国での6日間のことは決して忘れません。韓国でお世話になったすべての人たちに本当に感謝します。

1-3. 2016年韓国PAX

広島修道大学法学部国際政治学科 3年 山足奈々子（やまあしなな子）

私は、自分の身近なところから、日韓平和の架け橋になりたいと思い、韓国PAXに参加しました。今回、韓国PAXに参加し、私は主に3つの出来事を通し学び、成長しました。1つは、2日目に訪れた「ナヌムの家」での出来事です。私は初め、性的被害を受けられた方にどのような顔でお会いすればいいのか戸惑い、なかなか前に出ることができませんでした。日本人の立場で会うのか、同じ女性の立場として会うのか複雑な気持ちでした。しかし、イ・オクソンさんの「私は、世界中の女性が私達と同じ被害に遭うことを防ぎたい。だからこそ伝えているのです。」という言葉を聞き、「伝えなければ、私が次世代に伝えていかなければいけない。」と強く思い、帰り際にやっと彼女の前まで足を運ぶことができました。そして私は「伝えます。日本に帰って、まずは私の身近な大学の友達に伝えます。」と言いました。すると、彼女は私の手をぎゅっと握りしめ、「また来てくださいね。よろしくね。」と私の目を見て言われました。そして手を握ったまま彼女の部屋に案内してもらい、たくさんの写真を見せてもらいました。彼女は過去に悲惨な思いをされ、残酷なものをたくさん見てこられました。しかし彼女の手はとても温かく、笑顔はキラキラ輝いていました。今思うと、大学生の私を昔の自分に照らし合わせておられたのかもしれません。

2つ目は3日目の「修復的正義」の時間です。この時に数人の子ども達が来ていたのですが、その子たちと折り紙をしたり、韓国語で会話するなどして一気に仲が良くなりました。「奈々子ちゃん、席に一緒に座ろう。」「奈々子ちゃんいつ帰るの？帰らないで。」「奈々子ちゃん、今週の日曜日教会に来てよ。」「奈々子ちゃん大好き！！！」などたくさんの幸せな言葉をもらいました。そして、最後に一人の小学生の女の子が私のそばに来て、「私は初め、日本人が嫌いだったけど、奈々子ちゃんに出会って大好きになりました。」と言いました。それを聞いて、私は胸が熱くなりました。彼女にとって日本人に会うのは私が初めてだったのです。私は今たった一人だけど、彼女にとっての日本人のイメージを変えることができたのではないかなと思いました。些細なことだけど、私が次世代の日韓の架け橋になったと実感した瞬間でした。彼女たちと、「また必ず会おう！」と約束してお別れしました。次に会う時はもっと日韓が協力できる関係になっていて欲しいと強く願いました。

そして最後に、Peace building の皆様との出来事です。Peace building の皆様は本当に心が温かく、大家族のようでした。そして、私はドンウクさんとヘソンさんという20代の新婚夫婦のご家庭にホームステイしました。私はお2人と夜必ずお話をする時間を作りました。話の内容は、広島のことやプライベートのことなどバラエティーに溢れています。私にとって彼らとの時間はとても楽しく落ち着く時間でした。お二人は、私よりも早く起床し一緒に朝ご飯の準備をしていました。「こんな夫婦になりたいな。」と憧れる存在になっていきました。本当に素敵な空間だったのです。日本に帰った今でも、お二人とは連絡を取り合っています。「奈々子会いたいよ。韓国に来たら必ず連絡してね。また泊まりに来てね。」とメールをいただきます。そして「広島に遊びに行きたい。」と言ってくださいました。さらに、私達のお世話をしてくださったヨルムさんとは歳が近いこともあって、ヨルムさんの部屋に行って二人で話をしたりと、友達になりました。ヨルムさんはまだ広島に来たことがないそうです。でも今回のことをきっかけに、「必ず広島に行くからね。奈々子に連絡する。」と言ってもらえました。このように、「広島に行くね。会いに行くね。」と言ってもらえるだけで、とても嬉しい気持ちになります。少しでも広島に興味をもってもらい、「また会いたい」と思われる人になれたことが一番嬉しいことです。そして将来広島に来てもらい、広島とはどのような場所なのか、実際に目で見て、心で感じて欲しいと思いました。

私は韓国PAXに参加して「繋ぐ」という言葉を見つけました。韓国でたくさんの場所を訪れ、たくさんの人に出会いました。この縁をすべて繋げば平和は来ると思います。実際にその人自身に会って会話し、互いが歩み寄ることで、初めて発見することが必ずあると思います。私はこれからも「繋ぐ」をスローガンに人と人を繋いでいきたいです。それは日韓関係だけではなく、これから行くオーストラリアで出会う人たちにも共通して言えることです。今回の経験をもとに、もっと世界に日本とは、日本人とは、そして広島とは、を伝えていきたいと強く思います。

そして最後に、今回このような機会を与えてくださった韓国PAXスタッフの皆様をはじめ、参加メンバーの皆様に感謝申し上げたいと思います。皆様に出会えたことにより、このような貴重な経験をすることができました。これからも皆様とのご縁を大切にしたいと思います。ありがとうございました。

2. グループのゲスト受け入れ

WFC 館長　マギー・フィニックス

2016 年の 3 月から 5 月にかけてグループのゲストを受け入れました。それぞれのゲスト達の出身地によって物のとらえ方が異なり、彼らの滞在中センターは華やかな場所になりました。

3 月 1 日からカナダのケベック州から 3 泊で 18 人の親切な高校生のグループが滞在しました。毎

朝、生徒の内 4 名が朝食の準備を手伝ってくれました。3 月 11 日には 3 泊でカリフォルニア州の Northcoast Preparatory and Performing Arts Academy から生徒 5 名大人 2 名が滞在しました。このグループは、被爆証言と碑めぐりの他に本川小学校の特別プログラムに参加しました。中国新聞社のジュニアライタープログラムから参加した 7 名との交流などの企画を藤井正一さんが立ててくれました。そのプログラムの中でアメリカの生徒達はお茶席に参加し、自分たちが作った女性の権利についての劇を演じ、本川小学校平和資料館を見て回りました。

4 月 6 日にはオーストラリアから映画製作者 5 名のグループが来て 12 泊しました。彼らは被爆者についてのドキュメンタリーを撮影しました。また、4 月 20 日にオーストラリアから 5 人のアボリジニ人を含む、別の 8 名のグループが来ました。彼らは 2 泊の滞在でしたが、一緒にむつみ園に行きました。4 月 10 日には、子供 3 人を含む 2 家族で構成された 10 人のグループが 3 泊しました。そのうちの 1 家族はシアトルから来て、他の 1 家族は横田基地に駐留していました。このグループの中の一人は幸運なことに、広島城で米国国務長官の John Kerry 氏と出会い、言葉を交わし握手をしたのです。

5 月 18 日、ミシガン大学日本研究センターから生徒 14 人と教員 2 名が 3 泊しました。生徒の何人かは日本語を勉強していて、自分たちの日本語を試す機会を得ました。それから、5 月 25 日に、日本の彦根にあるミシガン大学の日本センターから、10 名のグループが到着しました。当初は 2 泊する予定でしたが、27 日にオバマ大統領が広島に訪問する際の影響を考慮し、急きょ1泊だけにすることにしました。

センターに宿泊しないゲスト（たいていはグループですが）の被爆証言と碑めぐりの利用が増えています。3 月に 3 人、4 月に 13 人から、このタイプの要請がありました。5 月には Butler University の 16 名のグループから、6 月にはグローバル教育プログラムを専門とする会社、Envoys の 21 名のグループから要請がありました。宿泊しないグループへの被爆証言と碑めぐりの提供に対して、参加者一人一人に WFC への寄付をお願いします。

（2016 年 5 月 19 日、ミシガン大学）

（2016 年 5 月 31 日、Butler University Indianapolis）

3. 新理事紹介

新理事　清水美喜子

このたび思いがけずWFCの理事にご推薦をいただきました。WFCとは英語クラスの生徒として三年間の関わりのみですが、思いもかけないことなのに、じっくりと考える暇もなく、何か私でお役に立てることがあればとお引き受けすることにしました。WFCのことは、まだまだ学びの段階です。

丁度3年半前、当時の私は、夫の仕事のために6年半の米国生活を終えて帰国したばかりで、英語をキープするための何かいい手段を模索中でした。初めて参加したHIPの例会で、前の前のWFC館長、Larry ＆ JoAnnさんに出会い、WFCの英会話教室にご縁ができました。初めて参加した見学クラスが、残念ながら、お二人の最後の英会話レッスンでしたが、JoAnnさんからお二人の送別会に来てほしいと言われて出席したのが、WFCに関わった初めての出来事です。その日は、お二人を慕う多くのメンバーの方々にお会いでき、何とすばらしい人柄なのだろうと、とても感動しました。

送別会では、とてもチームワークのとれた火曜日の英語クラスのメンバーと出会い、何も分からない私に、とても親切に接していただきました。その後、新たな館長Richard ＆ Xiniaさん達による英会話教室を、そのメンバーの方々とご一緒しました。そのことが、昨年WFCの50周年記念行事があった時、バーバラさんのお孫さん、Lisaさんのご家族6人のホームスティをお引き受けすることにつながりました。クラスのメンバーの暖かいご協力のもとに、Lisaさん家族を買い物やあちこちお

連れし、広島に来られたバーバラさんの子ども達の家族と、すき焼きレストランや宮島にご一緒し、親しく交われる特別なチャンスを持つことができました。

昨年秋から、日程の都合で今の館長、Maggieさんの木曜日英会話クラスに変わりました。この3月には、このクラスのメンバー3人と他の4人の方々を加えた7人グループの韓国PAXに、団長として参加させていただきました。日韓の歴史的背景に絡む辛い現実に出会わなければなりませんでしたが、韓国側の親切で心のこもったおもてなしに感動し、世界平和のための見方を共に分かち合えるまたとない経験を積ませていただきました。

本来は、英語力の持続にとスタートしたことなのですが、広島人として平和構築のために尽くす使命があるように思い、そのためには、あまりにも知らないことが多すぎて、もっぱら勉強中です。私の能力は微々たるものですが、できる範囲内で、与えられたお役目を果たさせていただこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新理事　高杉ゆかり

ワール・ドフレンドシップ・センターの理事として新しく加わった高杉ゆかりと申します。よろしくお願いします。私は生まれも育ちも広島です。ワールド・フレンドシップ・センターの土曜日の英語クラスに通っています。いくつかのイベントにも参加しました。

「71 年前、雲ひとつないよく晴れた朝、空から死が落ちて世界は変わりました。」ご存知の通り、これは、5 月 27 日に広島で行われた、オバマ大統領のスピーチの冒頭部分です。

その死が空から落ちた後、広島で生き残った人々は、復興のために立ち上がりました。原爆ドームは当時のつらい記憶を思い起こさせたことでしょう。にもかかわらず、広島で生き残った人々は、「ノーモアヒロシマ」のシンボルとして、原爆ドームを残そうと努力したのです。そして 1996 年に原爆ドームは世界遺産に登録されました。私は、困難を乗り越え、強く生きているその方々を尊敬しています。原爆と戦争の悲惨さを忘れないために、その中の何人かの方は、自らの体験を証言しています。私に言わせると、それは世紀の偉業です。被爆証言をしている方々が、自らの苦い体験を語るために、必死の努力をされていることを、私は知っています。私達は、戦争の恐ろしさを忘れてはいけません。戦争のない平和な世界のため、バーバラ・レイノルズさんによって点火された平和の明かりを私達で輝かせようではありませんか。

理事の仕事には慣れていませんが、ぜひお役に立ちたいです。

4. アメリカ委員会のメンバーとしての経験

前館長（2013-2015）　シニア＆リチャード・トバイアス

リチャードが「わが心のサンフランシスコ」の歌詞を引用して二人の心の一部を広島に残してきたと語る時、私も同じ気持ちになります。ワールド・フレンドシップ・センターの館長としての 2 年間は、私達の人生に予想以上の影響を及ぼしました。WFCの館長として 2 年間奉仕した事を名誉に思っています。それは私達の人生で最も多忙な時でした。（ほとんどの館長経験者も同じ意見だと思います。）しかしながら、私達は我を忘れて奉仕したいと思い、犠牲も必要だと分かっていました。リチャードがたびたび言っていた「我々は奉仕するために来た。」「我々はセンターの役に立つ為にここにいる。」という言葉をここに記したいと思います。

WFCの前館長としてアメリカに帰ってから私達はアメリカ委員会のメンバーになりました。この委員会は 12～14 人の活動的なメンバーによって構成されています。しかし彼等の全員がWFCの前館長と言うわけではありません。会合はインディアナ州のノース・マンチェスターで開かれています。そして出席者はインディアナ州やオハイオ州に住んでいます。他の委員はオレゴン州、アリゾナ州、テネシー州、ウィスコンシン州に住んでいます。秘書はドワイト・ベリーで会計がデニス・ホーンです。彼らは館長の経験はありませんがアメリカ委員会のメンバーとしてボランティアをしています。4 月のミーティングで委員長のエヴィ・バーチェがその役を辞任し、後任にシニア・トバイアスが任命されました。会合は必要に応じて開かれ、日時はメンバーの都合によってその都度決められます。2015 年の 8 月に帰国して以来、委員会は 2015 年 9 月と 2016 年 4 月の 2 回開かれました。次のミーティングは 8 月 6 日の予定です。9 月のミーティングでワールド・フレンドシップ・センターでの経験を話しました。また募金活動や 2017 年の新しい館長についても話しました。将来の館長候補として 2 組の素晴らしいクリスチャンの夫婦がいます。

アメリカ委員会は引き続き、経済的にワールド・フレンドシップ・センターを支援し、PAX チームを日本に派遣したいと考えています。特に、平和と核兵器廃絶のメッセージを広めようとする WFC の活動を支援していきたいと思います。

5. 中近東オレアンダー・イニシャティブ

WFC 理事長　山根美智子

前回の機関紙「友愛」でこの中近東オレアンダー・イニシャティブの事を少しだけお知らせしました。徐々に具体化してきましたのでご報告します。

8 月 3 日から 9 日まで、ワールド・フレンドシップ・センターに 12 名の高校教員とスタッフ数名が宿泊します。先生方の出身国は、中近東の様々な場所と北アフリカからです。ヒロシマでの 7 日間で、資料館、被爆証言、平和公園の碑めぐり、我々理事仲間のロン・クライン先生の講義、原水爆禁止世界大会への参加、平和記念式典、灯篭流し、女学院高校での学生との討論などが予定されています。ヒロシマでの 1 週間の研修で、教員たちは核兵器の恐ろしさ、非人道性をしっかり学び、自国での教育現場において、核兵器と人類は共存できないことを学生に伝える責任があります。
このような意義深いプロジェクトにWFCが関わることは、大変やりがいがあることだと思います。
今回のプロジェクトが成功裡に終われば、これから毎年開催されるかもしれません。
この中近東の責任者は、レイ・マツミヤさんと言うボストン在住の日系アメリカ人です。レイさんにWFCの事を紹介したのは、WFCのインターンをしたことのある、ボストン在住のメアリー・ポピオさんです。レイさんのお母さんは子供の頃、呉に住んでいてバーバラ一家に会ったことがあります。バーバラの書いた小説「EMILY SAN」は、ジェシカをモデルとして、バーバラが一生懸命、虹村に住むアメリカの子供達と日本の子供たちにお互いの言語や文化を学ばせる様子が描かれています。レイさんのお母さんもその中の１人で、ジェシカなどと遊ぶうちに英語に興味を持ち、その結果アメリカへ留学し、その後アメリカで結婚し、レイさんが誕生しました。これには不思議な縁を感じます。バーバラの人間同士を結び付ける力にも、感心してしまいました。

（後列：アール＆バーバラ・レイノルズ
前列：レイさんのお母さん、ジェシカ）

中近東オレアンダー・イニシャティブに、ご協力よろしくお願いします。

6. 修道大学インターン

人文学部英語英文学部 3 年　細田成美

（前列左：細田成美）

こんにちは。私の名前は、細田成美（ほそだなるみ）です。広島修道大学の 3 年生で、英語英文学科です。英米文学や、言語などを学んでいます。私は、外国人とコミュニケーションを上手く取るため、また、仕事などのために英語を勉強しています。イギリス英語やオーストラリア英語など、世界の英語に興味があります。現在は、横川にある修道大学の留学生寮にアシスタントとして住んでいます。オーストラリアとイングランドに留学経験があります。運動と読書が趣味です。

ワールド・フレンドシップ・センターを派遣先として選んだ理由は、平和学習に興味があるからです。私は、大学 1、2 年生の時に、平和公園を外国人に英語でガイドをするボランティアに参加しました。大学を卒業したら、多くの外国人に広島について知ってもらえるような仕事や活動がしたいです。また、外国人と話をすることが好きです。普段留学生とは日本語で会話をしているので、もっと英語を使う機会がほしいと思いました。なので、ワールド・フレンドシップ・センターで働けることをうれしく思います。よろしくお願いします。

人文学部英語英文学科 1 年　　西村大河

（右：西村大河）

私の名前は西村大河（にしむらたいが）と申します。出身は広島市で、修道大学の英語英文学科の 2 年生です。1 年生の時は主にアメリカ文学や、世界史、言語学などを学びました。私は留学の経験がないのですが、来年留学をしようと考えています。将来は英語教師になりたいと思っています。

私は大学内の ICL という学内の国際サークルと AFS という公益財団法人の学生ボランティアに所属しています。ICL では留学生と本学の生徒を対象とした、国際的なイベントなどを計画しています。AFS では、組織のプログラムで来日している高校生の交換留学生のサポートをしています。このボランティアでは、毎夏留学生たちに平和について教えていますが、

彼らは日本語を学んでいるので、日本語で教えています。

私が WFC のインターンに申し込んだ理由は 2 つあります。1 つ目は平和について学びたいと思っているからです。僕は広島に生まれましたが、広島の平和についての知識は十分でないと感じています。自分が住んでいる町の歴史を知らないのは、少し恥ずかしいことです。私は AFS の活動で平和学習はしたことがありますが、私自身と私が平和を伝える留学生たちのために、もっと知り、考えたいと思っています。

2 つ目は、英語を使いたいからです。授業などでの機会はありますが十分ではありません。もし WFC での研修ができるのであれば、英会話に参加させていただけるだけでなく、外国人のゲストの方々と交流ができると考えたからです。それと、私は人と関わることが好きなので、このインターンシップは私にとってとても良い機会だと考えたからです。

7. ロバート・ラムザイヤーさんの一生

WFC副理事長　立花志瑞雄

アリス・ルース・ラムザイヤーさんと共にワールド・フレンドシップ・センターの理事をつとめられたロバート・ルイス・ラムザイヤーさんが、2016 年 4 月 30 日、アメリカのオハイオ州ブラフトンのメノナイト記念ホームで、亡くなられました。享年 86 歳。

ロバートさんは、１９２９年５月９日、イリノイ州のブルーミントンに生まれました。祖父はヨーロッパから信教の自由を求めて、アメリカに移民としてやってきてメノナイトでした。メノナイトは戦争に関わることを拒否し、メノナイト教会は、ブレザレン教会やクエーカーとともに、歴史的平和教会とアメリカでは呼ばれています。

ロバートさんは 1946 年ブラフトン高校を卒業し、1950 年ブラフトン大学を卒業しました。アリス・ルース・パナベーカーさんと 1951 年に結婚しました。

ロバートさんは 1959 年ミシガン大学で日本研究により修士号を得、1969 年には文化人類学の博士号を取得しました。

ロバートさんとアリスさんは、1954 年、アメリカのメノナイト教会から宣教師として日本に派遣され、

延べ 30 年余、宮崎と広島で奉仕されました。ロバートさんは、インディアナ州のエルカートにある再洗礼派メノナイト聖書神学校（1972 年から 1996 年まで教鞭をとりました）の宣教学、文化人類学の名誉教授でした。

ロバートさんとアリスさんは、メノナイトのエバ・ハシュバーガー（WFC 館長）を通してワールド・フレンドシップ・センターのことを知りました。1978 年、広島で住居を探すため WFC に滞在しました。1980 年、広島にメノナイト教会を創立しました。1982 年から 87 年までアメリカに一時帰国しました。1987 年に広島に戻り、1995 年引退するまで滞在しました。広島にいる間、WFCの理事を務めました。

ロバートさんは日本語が堪能で、広島平和文化センター出版の「ヒロシマ読本」、WFCの理事長であった原田東岷先生の著書「平和の瞬間」、「ヒロシマの外科医の回想」など、英語に翻訳しました。
ロバートさんとアリスさんはWFCアメリカ委員会でも奉仕し、エビー＆デイビッド・バーチェさんにWFCの館長になるように助言しました。二人は 1997 年、ロバートさんの引退とともにブラフトンに移り、第一メノナイト教会に所属しました。二人は日本からの友人やPAXのメンバーを歓迎し、ブラフトン大学の「ライオンと子羊平和アート・センター」に案内しました。

ロバート・ラムザイヤーさんの思い出

WFC 副理事長　　車地かほり

（左より：車地かほり、ロバート・ラムザイヤー、車地さんの息子さん車地光太郎、アリス・ラムザイヤー）

ロバート・ラムザイヤーさんが 2016 年 4 月 30 日にお亡くなりになりました。思えば私が、ラムザイヤーご夫妻に初めてお会いしてから 37 年～38 年経ちます。ラムザイヤー夫妻は広島に来られる前は、宮崎県の高千穂地方に長年にわたり住まわれていたと聞きました。広島にはメノナイト派の宣教師として来られました。広島に来られた当初、住居が定まるまで数週間 WFC に滞在されました。
その当時、WFC は翠町の県病院の近くにあり私は 1978 年 3 月から 2 年間住み込みのスタッフをしていました。 ラムザイヤー夫妻が WFC に滞在されたのは 1980 年だったと思います。40 年近く

も昔の事で詳しい事は憶えていませんが、大変仲の良いご夫妻だったという強い印象が残っています。その後、ご夫妻はWFCの理事に就任され、長くセンターの為にご尽力下さいました。中でも原田東岷理事長（当時）の本その他を英訳された事は特筆に値します。ご夫妻はお二人とも大変な人格者で多くの人達から慕われ尊敬されていらっしゃいました。ご主人のボブさんは、確か文化人類学者でいらして知的で落ち着いた雰囲気の方でしたが、時にウインクで合図する茶目っ気もありました。奥様のアリスさんは、とても控えめで奥ゆかしく、日本人以上に日本的な印象を受ける方です。何時の頃だったか、ご夫妻を坂町の我が家に招待して楽しいひと時を持ったこともありました。息子がまだ 4～5 歳だったころ、家族で舟入のマンションに食事に呼んで頂いた事もあります。アメリカに帰国された後にもPAXの旅でオハイオ州のご自宅を訪問し、日本食をご馳走になった事もあります。ラムザイヤーご夫妻に関する限り、みな懐かしく楽しい思い出ばかりです。ボブさんのご冥福を心からお祈りすると共に、残されたご家族、特にアリスさんに豊かな祝福がありますように！

8. 空フミコ先生を偲んで

WFC 理事長　山根美智子

私達の敬愛する空フミコ先生が、2016 年 3 月 10 日に 87 年の生涯を閉じられました。先生は被爆者で、中学校の英語教員を務めながら、平和教育に並々ならぬ情熱を注がれました。1945 年 8 月 6 日、空先生は、爆心地から 2. 7kmの吉島にある飛行機を作る工場に学徒動員で出ていた時、被爆されました。片目を失い、生涯義眼をはめるという不自由な生活をされました。その後、自分一人でも生きていける仕事に就きたいと、教員の道を選ばれました。学校では生徒達に被爆体験を話され、原爆のむごさ、非人道性、戦争の愚かさを伝えました。

WFCのゲストにも、頻繁に被爆体験を語ってくださり、私はその時通訳のお手伝いをしました。空先生とはWFCの活動を多く共有しました。英語クラス、翻訳クラス、むつみ園訪問、ピース・クワイアーなど、積極的に参加してくださいました。空先生のお蔭で、平和教材を数知れず翻訳し、私はしっかり日本の加害の歴史などを学ぶことができました。翻訳した教材が中学校などで使われました。その中の一つ「たみちゃんの長い夜」を、韓国PAXへ行った時に使い、ヒロシマの先生方は日本の被害だけでなく加害も教えていることを伝えました。ジム先生も、日中韓の青少年対象にピース・キャンプで、この教材を使ってくださっています。1996 年にはアメリカPAXで、1999 年のドイツ・ポーランドのPAXでも空先生とご一緒しました。

ご主人の空辰夫さんとは、1975 年 8 月に、ウィルミントン大学で「ヒロシマ・ナガサキ 30 年後—ウィルミントン会議」のタイトルを掲げて、バーバラが国際平和セミナーを開催した時、出席したのが縁

で結婚されました。ご夫婦共に、平和教育に尽力されました。WFCとの関係は 40 年という事になります。

実家の熊野で、野菜作りをされ、無農薬の野菜をWFCや、我が家に届けてくださいました。ひたむきに、一生懸命生きられた姿勢は、私の人生の模範となっています。あの優しい笑顔は、忘れることができません。

（1996 年　アメリカPAXにて
左から：ジェシカ、空先生、関口先生、アール・レイノルズ、山根美智子）

（1999 年　ドイツPAXにて
後列：岡田恵美子、山下美枝子
前列　山根美智子、空フミコ）

空フミコ先生の生き甲斐 「ピースセミナー」

WFC 理事　　田口　知鶴子

ピースセミナーは、1994 年に、空フミコ先生の提案で開始されました。初回の講師は、その年『加害基地宇品・ヒロシマ学習』を出版された夫君、空辰男先生でした。当時、広島の歴史について皆無の状態で参加した私は、宇品港築港から明治政府の広島重視の政策、日清戦争の玄関口となった宇品港、明治政府議会が広島で開かれ、軍都として成長拡大する広島の歴史は、驚く事ばかりでした。日本がアジアに領土を広げんとたくらみ、広島に原爆が投下されるまでの経緯を学び、空先生ご夫妻の広島にかける思いの深さをひしひしと感じました。

15 歳で被爆し左眼を失明された空先生は、幾多の艱難を乗り越え不屈の精神の持ち主でした。「八紘一宇（はっこういちう）」の教育を受けて育ち、学徒動員で大きな障害を持つ身になられた体験から、中学教師として、正確な知識を持ち自分で正しく物事を判断できる人間を育てる事に専念され、とりわけ

平和教育については、辰男先生と共に国内外で研究を重ねられ、退職後もボランティア活動の被爆証言を通して核兵器の残虐性と核廃絶を訴え続け、WFC や館長ご夫妻を支援しながら、平和の礎を築く活動に生涯を捧げられました。正義感溢れる空先生は、社会を脅かす問題に常に敏感に反応され、それをピースセミナーのテーマとして取り上げ、資料を準備したりその道の専門家を招いたりして、20 年にわたりセミナーを牽引して下さいました。

チェルノブイリ事故の影響、上関原発建設、憲法 9 条・集団的自衛権、日韓平和教育研究会、島根原子力発電所の問題点、再生可能エネルギー、小規模水力発電、福島原子力発電所事故等々、様々な課題を取り上げて話し合ってきましたが、常に世界的視野に立ち、過去の反省の上に将来を考え予測する事の大切さを教えて戴きました。

一方で、若者の心を失わず旅行が大好きな空先生でした。2007 年にドイツ旅行に同行させて戴いた折、スーツケース 2 個を携え、「音楽会にはやはり、ドレスとヒールの靴がないとね。」とさっそうと歩かれ、食欲も驚くほど旺盛で、欲しい物はどこまでも探し回るという、疲れ知らずの楽しい先生でした。

突然の病で、一ノ瀬脳神経外科に入院されたとの知らせを戴き、まだまだ先生に学びたいことが山程ありましたのに、本当に悲しい別れとなりました。
　ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

友愛編集委員：　ジム・ロナルド、栗原尚美、車地かほり、平岡佐知子、マギー・フィニックス
翻訳者：　兼綱寿美子、車地かほり、清水美喜子、高杉ゆかり、立花志瑞雄、西村大河、
平岡佐知子、細田成美、山根美智子

発行者　特定非営利活動法人ワールド・フレンドシップ・センター
発行所　〒733-0032　広島市西区東観音町　8－10
(C)NPO World Friendship Center 2016
無断転載、複製を禁ず